2022 No.103
令和4年11月10日発行

議会だより こさか

小坂マリア園ミニ運動会
かけっこ、リレー、遊技披露に声援と大きな拍手をおくっていました。

●９月定例会の概要　2
令和３年度決算を認定
●決算特別委員会報告　3～4
●西十和田トンネル（仮称）早期建設要望等　4
●一般質問　5～9
こんなことを聞きました（４議員）
●みんなの広場、人事案件に同意等　10

小坂町かぶきん

発行/小坂町議会　編集/小坂町議会広報対策特別委員会　〒017-0292 秋田県鹿角郡小坂町小坂字上谷地41-1　☎0186-29-3914
e-mail:gikai@town.kosaka.akita.jp

9月定例会

令和４年第５回小坂町議会定例会が、９月８日から16日までの９日間の会期で開催されました。

議会では、令和３年度一般会計と各特別会計等の決算、条例の制定、条例の一部改正や補正予算などの議案を審議しました。また、一般質問では４人の議員が登壇し町側の考えを質しました。

令和3年度決算を認定

一般会計は1億797万円の黒字

※詳細は３～４ページを参照

主な補正予算

- ・災害復旧費　8640万円
- ・夢ある園芸産地創造事業補助金　842万円
- ・消防団員報酬増額分　560万円
- ・旧川上公民館解体等設計委託料　542万円

９月定例会では、一般会計特別会計等の決算の認定、小坂町下水道事業の設置等に関する条例制定などの条例議案８件、補正予算６件、和解及び損害賠償の額を定めることや購入契約の締結、人権擁護委員候補者の推薦など人事案件７件を原案のとおり可決しました。

また、意見書案１件を可決しました。

（下面に議案一覧）

余路米川の災害箇所

採決の際に賛否が分かれた案件の結果（9月定例会）

○：賛成　●：反対　欠：欠席　退：退席　（議長は採決に加わりません）

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	採決結果
案件名 ＼ 議員名	船水隆一	栗山忠三	本田佳子	亀田利美	菅原明雅	秋元英俊	成田直人	鹿児島巖	小笠原憲昭	熊谷聴	椿谷竹治	目時重雄	
西十和田トンネル（仮称）の早期建設を求める意見書提出について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	＼	可決

審議された議案一覧（※議長は採決に加わりません）

区分	第５回定例会 議案名	採決状況 賛成	採決状況 反対	結果
条例の制定・改正	小坂町下水道事業の設置等に関する条例の制定（産業教育常任委員会付託）	11	0	可決
条例の制定・改正	小坂町下水道事業の設置等に関する条例の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定（産業教育常任委員会付託）	11	0	可決
条例の制定・改正	小坂町職員定数条例の一部を改正する条例制定	11	0	可決
条例の制定・改正	職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例制定	11	0	可決
条例の制定・改正	特別職の職員で常勤のものの給料、旅費及びその他の給与額並びにその支給方法に関する条例の一部を改正する条例制定	11	0	可決
条例の制定・改正	小坂町特定公共賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定	11	0	可決
条例の制定・改正	小坂町給水条例の一部を改正する条例制定	11	0	可決
条例の制定・改正	小坂町消防団員の給与及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定	11	0	可決
専決処分	一般会計補正予算（第３号）の専決処分	11	0	承認
補正予算	一般会計補正予算（第４号）	11	0	可決
補正予算	国民健康保険特別会計補正予算（第１号）	11	0	可決
補正予算	介護保険特別会計補正予算（第１号）	11	0	可決
補正予算	歯科診療所特別会計補正予算（第１号）	11	0	可決
補正予算	一般会計補正予算（第５号）	11	0	可決
認定	令和３年度小坂町一般会計歳入歳出決算、特別会計歳入歳出決算及び水道事業会計決算の認定	11	0	認定
報告	令和３年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告	－	－	報告
その他	和解及び損害賠償の額を定めることについて	11	0	可決
その他	消防ポンプ自動車の購入契約の締結について	11	0	可決
その他	西十和田トンネル（仮称）の早期建設を求める意見書	10	1	可決

令和３年度一般会計決算

歳入総額	53億3409万円
歳出総額	52億 140万円
差引額	1億3269万円
翌年度の使途決定済み額	2472万円
実質収支額	1億 797万円

決算特別委員会報告

健全な財政運営を図るため 行財政改革の推進を

決算特別委員会は、9月12日、13日の両日に、令和3年度の一般会計と8つの特別会計及び水道事業会計の決算を審議し、町政全般にわたり質問等が出されました。

●総務費

問 職員の通勤手当は長期間据え置かれているが、実態に合った改善はできないか。

答 諸手当については国・県の人事院勧告に準じて支給しています。

問 婚活について、「あきた婚活支援センター」入会者ゼロ、「婚活セミナー」参加者ゼロとなっているが、この状況をどう受け止めているか。
各種団体と連携するなど工夫が必要では。

答 コロナの影響で企画が困難な状況であったとはいえ、厳しい状況で、検討が必要です。

●民生費

問 あかしや荘が再開となったが利用状況はどうか。

答 昨年10月に再開となり、1日あたりの平均で54人の利用となっています。

問 先日の大雨による断水時に風呂に入れない町民がいたと聞く。災害時等にあかしや荘の利用について取り組む考えは。

答 今後は、状況を見ながら対応していきたい。

問 災害り災見舞金の金額が現実と合っていないのでは。

答 要綱を改定してから30年以上経過しています。来年度予算から検討していきたい。

●衛生費

問 不法投棄監視員の見回りの実績は。

答 各地区に1人を配置し、月1回のペースで見回りしています。

●農林水産業費

問 ジャガイモ関連施設を視察してきたが、今後、どの程度の面積まで拡大していくのか。コンテナ30基購入したが来年以降の追加購入はするのか。

答 耕作地は、令和4年で3町4反歩で、昨年と比較し4．6倍となっています。施設能力では12町歩まで可能です。コンテナの数については、現状で対応可能です。

問 大雨で農作物の被害が大きかったと聞くが、生産者への補助等はどのようになっているのか。

答 収量の状況を見てからの判断になるかと思いますが、基本的には収入保険等での対応になるかと思います。県で豪雨被害農家への支援を検討していますので、不足な部分については町の支援を検討したいと思います。

●商工費

問 令和3年度においての、観光大使、北前船サミットのかかわりは。

答 観光大使については、今までどおりお願いしている状況ですが、観光大使の方々が北前船に力を入れている状況もあり、町に呼んで観光フォーラムを行う状況にはありません。

意見 町では、いままでもいろいろな知恵などいただいている。アフターコロナで町を活性化するため、インバウンドには必要な方々であり、知恵をいただくことを考えていただきたい。

●消防費

問 災害用備蓄は各避難所で備蓄されているのか。

答 セパームに備蓄場所がなく準備していない。教育委員会と検討していきます。

第6回定例会　議案名（右ページより続く）

区分	議案名	賛成	反対	結果
人事案件	人権擁護委員候補者の推薦	10	1	可決
人事案件	情報公開審査会の委員選任（一人目）	10	1	同意
人事案件	情報公開審査会の委員選任（二人目）	11	0	同意
人事案件	情報公開審査会の委員選任（三人目）	10	1	同意
人事案件	情報公開審査会の委員選任（四人目）	8	3	同意
人事案件	情報公開審査会の委員選任（五人目）	11	0	同意
人事案件	教育委員会の委員選任	10	1	同意

教育費

問 中学校の部活動についてもスポーツ少年団と同じように、来年から3か年かけ地域移行していくこととなるが、どう考えているか。

答 県が検討しているところですが、町としても子どもたちのため、また、職員の働き方改革からも検討していきます。

総括質疑

問 不用額について、前年と比べて多額となっている。

答 課長会議等で、精査するよう話しています。引き続き指導していきます。

国民健康保険特別会計

問 財政調整基金に1千万円積み立てを行って、なお2千600万円の黒字になっている。加入世帯の保険料を下げてもいいのではないか。

答 今後の推移を見ながら、運営協議会等と協議していきたい。

歯科診療所特別会計

問 診療体制の確立が急務とは、どういう意味合いか教えてほしい。

答 歯科衛生士の確保が急務となっています。昨年以来募集していますが、採用まで至らない状況です。

令和3年度　一般会計
特別会計及び水道事業会計決算

決算特別委員会報告書 特記事項

1. 不用額について、まだ調整されていない項目があることから適正な処理を行い、有効な予算の活用に努力すること。
2. ワイナリー事業の拡大のためにも、ぶどうを栽培する就農者への支援や、ワインの普及促進に関する取り組みを図られたい。
3. 小坂鉄道レールパークの運営について、今後も赤字が懸念されることから、町民が安心して継続できる事業だと思えるよう、さらなる努力を重ねていただきたい。

大雨被害の崩壊箇所など視察

8月の大雨により、農作物、農業用施設、道路、河川の被害のほか、倒木等による断停電、水道施設被害による断水、住宅浸水等がありました。議会では町道関係で真木ノ平線と余路米1号線の2か所、農地は、砂子沢地区の水路土砂流入を視察しました。

予想以上の被害で早期の復旧を議会として町に要望しました。

▲町道が崩落した真木ノ平線（砂子沢地内）

西十和田トンネル（仮称）早期建設を求める要望活動

西十和田トンネル（仮称）は、冬期閉鎖されている青森県平川市温川から小坂町滝ノ沢までをトンネルで結ぶ建設構想区間で、津軽方面から十和田湖への観光ルートです。

9月議会で早期建設の意見書を採択し、10月25日に建設促進市町村議長会会長の平川市議会議長と一緒に秋田県建設部長に要望活動を行ってきました。

西十和田トンネル（仮称）構想図

▶秋田県建設部長（中央）に意見書を手渡す、平川市議会議長（右）と目時議長（左）。

1　5番　菅原　明雅 議員

1.「日本で最も美しい村連合」について
2.「避難指示」ついて

2　8番　鹿児島　巖 議員

1. 会計年度任用職員の処遇改善について
2. 高校再編にかかわって、高校生への就学支援について
3. 国の「地域脱炭素・再エネ推進交付金」事業にかかわって

3　6番　秋元　英俊 議員

1. 令和4年8月の大雨による災害について
2. 地方公務員の定年について（条例の改正について）

4　3番　本田　佳子 議員

1. 再生可能エネルギーについて
2. 防災・減災について

「美しい村」加盟のメリットは

町長　町民の誇りと町の情報発信につながるものと考えております

菅原　明雅 議員

一般質問
町政を問う

「美しい村」のプレートが設置されている十和田湖・発荷峠

問「日本で最も美しい村連合 定期総会・学習会２０２２in秋田県小坂町」が成功裡に終えられました。

⑴会長は「無いものを数えるのではなくあるものを生かすことを考え、これからの観光事業にあたりたい」と挨拶されましたが、「小坂町にある生かせる観光資源」とは何か。

⑵小坂町の発表の中で、「小坂町が美しい村であり続けるための課題」として、①情報発信力 ②町に誇りを持つこと ③次世代へ継承してゆくこと の３点を挙げておりましたが、この課題に具体的にどのように取り組み、解決していこうとお考えか。

⑶「日本で最も美しい村連合」に加盟しての、町のメリットをお示し願いたい。

答　⑴世界に誇れる国立公園十和田湖、近代文化遺産が立ち並ぶ明治百年通り、小坂七滝ワイナリー、環境リサイクル産業などは、他では類を見ない町の誇れる観光資源です。また、農山村の景観・文化を守りつつ、町づくりに励んでいる町内の各種団体は、観光資源を支える礎です。

⑵①観光パンフレットやSNSを活用した情報発信に加え、小坂町産ワインや食材、鉄道ファン、日本語学校、十和田湖西湖畔でのアクティビティ活動など、新たな観光資源を活用した関係人口の創出や、全国の美しい村運動の広がりの中での情報発信を図っていきたい。②今後も町の観光資源を活用した運動を推進しながら、町民主役の町づくりを推進していくことで町に誇りを持つことにつなげていきたい。③これまでの活動に加え、今年は地元高校生の農業体験の受入や、県内大学生のインターンシップの受入も計画しており、町内外問わず次世代への継承を今後も推進していきたい。

⑶美しい村への加盟による活動は、町にとっては大きな誇りであり、情報発信にもつながり、次世代への継承にもつながっていくものであり、町としても大きなメリットである。今後も、日本で最も美しい村の意義について町民にご理解いただき、観光資源を活用した町民が主役による町づくりに取り組んでいきたい。

要望　せっかくの全国大会開催ですので、これを機に、「日本で最も美しい村を訪ねる観光ツアー」などを計画し、観光業者等に積極的に働きかけていただきたい。

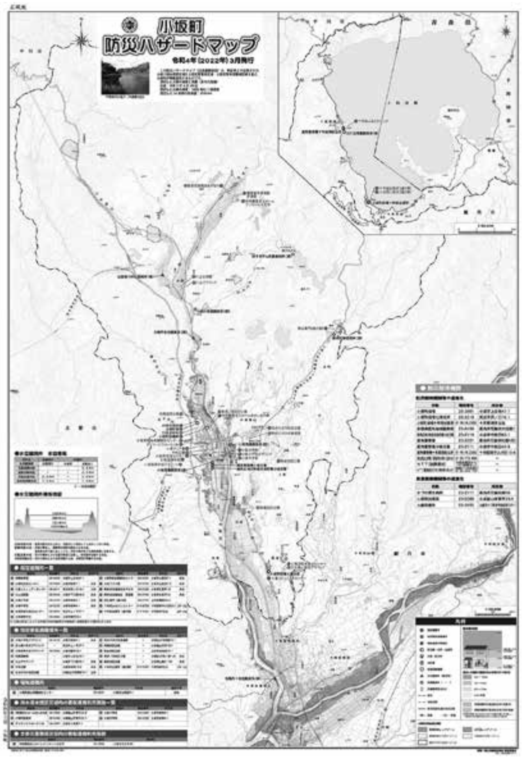
インバウンド復活に備え、国内はもとより世界各地から観光客が訪れる「観光の町」になるよう期待している。

「避難指示」について

問　政府広報によれば、「『警戒レベル３』は危険な場所から高齢者等は避難！」『警戒レベル４』は危険な場所から全員避難！」ということになっていますが、小坂町で「危険な場所」とは具体的にはどういう地域・場所になるのか。

答　小坂町は最上流地に位置し、周りを山に囲まれているため、洪水等の河川災害より土砂災害が発生する危険性が高くなっています。

危険な場所は、今年度全世帯に配布した「小坂町 防災ハザードマップ」で確認できます。土砂災害警戒区域等はレッドゾーン・イエローゾーンとして表示していますので、各自ご確認願いたい。



小坂町のハザードマップ

会計年度職員の処遇（賃金・手当や諸休暇など）改善状況はどうか

町長　賃金・手当などは制度導入3年目で一般職員に並ぶ水準としました

鹿児島　巖 議員

一般質問
町政を問う

問　会計年度任用職員制度発足にかかわって処遇改善を求めたが、これまでの答弁では制度導入後、3年目を目途に給与・期末手当・福利厚生の面で充実させたいとのことであったがどうか。

役場職員の勤務風景

答　給料では固定給から一般職と同様に給料表になり、雇用が継続している職員は昇級があります。

期末手当は今年度から10%の支給率となりました。福利厚生では本年10月から被用者保険から共済組合に移行します。

そのほか、年次休暇・育児休暇など、特別休暇などの休暇制度が大きく充実する処遇改善を行いましたが、一部に格差が残っていますので引き続き改善に取り組みます。

高校生への就学支援 再編まで1年半、早急に支援策の具体化を

教育長　金額など出来るだけ早い時期に

問　高校再編がいよいよ迫っている。

再編後、高校に進学する生徒は全て町外への通学となることから、新たな就学支援が必要であることはこれまでも提起してきた。

現在の中学2年生からすべて町外通学となり、進学を予定している生徒は進学校の選択、学費・通学費などを含め具体的な検討に入っていることを考えれば、一刻も早く具体的な支援策を明示する必要があると考えるがどうか。

答　統合校に限らず全ての高校生に支援したいと考えており、金額など支援方法については詳細を詰め、できるだけ早い時期にと考えます。

国の「脱炭素移行再エネ推進交付金」事業に手を挙げる考えは

町長　まず自然エネルギー活用の可能性について情報収集したい

問　国は2050年カーボンニュートラルへ向けて2030年度の温室効果ガス排出を2013年度比で46%削減目標の実現を目指す施策として、再生可能エネルギーの主力電源化を掲げ、脱炭素事業に意欲的に取り組む地方自治体等を支援する交付金事業（最大4分の3の交付金）を開始したが、この事業をどのように受け止めているか。

答　お尋ねの事業は有効と認識していますので情報収集していきたいと考えます。

問　町での事業化として砂子沢ダムでの水力発電が現実的と考える。小水力発電では七滝・荒川水系で動きもあるがどう考えているか。

答　砂子沢で県が断念したのは財源の問題があったと聞いており、今回の事業は魅力的なものと受け止めています。

問　太陽光発電では小坂高校の跡地の利活用が可能ではないか。

小坂高校に広大な平地があり、少ない経費での太陽光発電施設への転換が可能と考える。

高校用地の活用は県との協議が前提となるが、どう考えるか。

答　魅力的な提案と受け止めますが、一方この場所は高速道路に隣接していることから、高速道路とのかかわりでの企業誘致という可能性もと考えてきました。

高校用地総面積 100,219㎡　内、野球場等平地 47,500㎡

8月の大雨による災害について

町長　河川災害を含め早期の復旧をめざしています

秋元　英俊 議員

一般質問
町政を問う

令和4年8月の大雨による災害について

問 町道関係の路面崩壊や路肩崩壊、法面崩壊など復旧はどのように進めるのか。また、上水道の断水について今後の対策ついてを伺います。

答 町道では15か所で路面崩壊による全面通行止めや路肩崩壊のため道路幅員減少となる被害が発生しました。

　真木ノ平線や余路米1号線、萩平台作線は、国の公共土木施設災害復旧事業補助金交付を受け行う予定としていますが、河川災害を含め早期の復旧を目指していますが、近隣市町村でも大規模な災害が発生しており、施工業者の手配が付かないなど対応に苦慮しています。

　また、断水の原因は、内ノ岱浄水場の導水管取水口のごみの流入を防ぐための網が外れてしまったためのもので、これを防ぐため、網の固定強化を行いたい。

問 土砂災害警報などの周知は、災害メールのほかに取った手段はどのようであったのか。また、消防団との連携は取ったのか。

答 町の防災情報メールのほか、ホームページ、緊急告示ラジオ、秋田県情報集約配信システム（Lアラート）で報道機関にも瞬時に情報が提供されることから、テレビを介して防災情報を伝えることができています。

　また、災害時の広報活動の一環として、消防団と連携した広報活動の在り方を協議していきます。

問 今回、災害についての広報車は回らなかったとのことですが、このまれに見る大雨で防災ハザードマップにある急傾斜地レッドゾーンや土石流レッドゾーンなどの土砂災害が警戒される場所へは、高齢者や通信弱者への周知手段として広報車を走らせることで危険を回避できると考えますが、いかがでしょうか。

答 今回のような大雨による災害対応は経験をしていませんでしたので、今後、災害周知手段は、十分な検討をして対処していきたいと考えています。

問 水稲や野菜等農業被害関係の被害に対しての救済対策はどのようするのか。

答 水稲に関しては一部被害に留まっていますが、ソバの転作田については発芽前に冠水したところが多く甚大な被害となりました。

　救済対策については、収入保険や収入減少緩和対策事業で対応できない分について、収量の状況を見ながら検討していきたいと思います。

　また、農業用施設については緊急性のある個所から随時補修しており、今後も国、県からの支援をいただきながら随時復旧していきます。

問 高齢者等に避難等の指示が出されましたが、避難者数は何家族、何名であったのか。

　また各避難所での職員体制はどの様に取ったのか。

答 8月3日は交流センターセパーム、川上・七滝公民館の3か所に避難所を開設し、セパームに2家族2人、七滝公民館に1家族2人が避難され、セパームは、日中でしたので通常勤務の職員で対応。8月9日から11日までは2日間とも3家族3人の方が避難され、12日から13日にかけても同じ方が避難しており、いずれの日も翌朝に帰宅しています。

　この間の夜間の体制は2人の職員で管理し、また、健康チェックのため保健師を派遣しています。

問 避難所におけるコロナ対策はどのようにしたのか。

答 来所された方には、日ごろからお願いしている検温と手洗い、手指消毒を徹底していただき、使用している部屋の換気に気をつけました。

問 各自治体において災害時等にドローンの活用が注目されているが、町ではその活用についてどのように考えているのか。

答 現在町には配備していませんが、今後は、企業や個人の方と災害時の協力体制を構築できないかを検討していきます。

ドローン訓練

地方公務員の定年について

問 小坂町において、定年についての条例の改定はどのように進んでいるのか。

答 定年の引き上げは国家公務員の制度改正に準じて行いますが、関係する条例、規則等が多数あることから、詳細について検討し、12月定例会に上程できるよう準備を進めているところです。

再生可能エネルギーの推進を

町長　情報収集しながら前へ進みたい

本田　佳子 議員

一般質問
町政を問う

問　現在、町で稼働している再生可能エネルギーはあるか。稼働している場合、エネルギー量はどれくらいか。

答　平成26年7月から使用している役場本庁舎設置の太陽光発電は、年間出力量3650キロワットで、非常用コンセント、トイレ照明、廊下照明の一部で使用しています。また、十和田湖和井内地区、観光拠点施設の入口に、地中熱を利用した融雪システムを導入しており、灯油ボイラーと比較して、1年間で約11トンの二酸化炭素排出削減を見込んでいます。ソーラーLED街路灯を、町内の災害時指定避難場所の17か所の施設に、合計29基設置しており、年間発電量は、800キロワットと見込んでいます。

問　町として、今あるほかに新たな再生可能エネルギーに取り組む考えはあるか。エネルギー確保のために進めている事業はあるか。

答　小水力発電が有利であると考えてますが、検証から年月が経過し、技術の進歩により状況が変化していると考えられます。エネルギー確保のために進めている事業はありませんが、持続可能なまちづくりに寄与するような、自然エネルギー活用の可能性について、情報収集しながら前へ進んでいきたい。

▶砂子沢ダム

事前の防災対策の推進を

町長　各自治会の組織化を推進する

問　高齢者等避難指示が周知されていたか。

答　防災情報メール、ホームページ、緊急告知ラジオの他、瞬時に報道機関まで情報共有されるLアラートにも登録しましたので、テレビを通じて避難情報等を配信などで周知しています。

問　豪雨災害で、倒木による停電が相次ぎました。現在電線と接触している樹木は確認されているのか。

答　現在は、そこまで細かい把握はできていませんが、先日、東北電力から事前伐採について協議したいとの申し出があり、来週、建設課と総務課と観光産業課で未然に災害を防ぐため協議を予定しています。

問　自主防災組織への働きかけは、この度の災害で連携が取れたのか。

答　小坂町地域防災計画の中で、結成促進に努めることとしています。現在、組織化が済んでいるのは17自治会で、令和3年度に1自治会、令和4年度に1自治会が組織化しています。令和3年度は、県の自主防災リーダー育成支援事業を活用して、防災士の要請及び自主防災組織の育成を推進してきたところです。未組織自治会に対して、地域住民防災力の向上を目指し、毎年防災に関する講習会や学習会を開催しています。それぞれの地域の危険要因に応じた準備や、必ずしも避難所への避難だけではなく、自宅を含め、近くの安全な所への避難行動を考えていただいています。

問　要支援者の避難行動計画について、災害弱者の命を守る個別避難計画の作成が必要と考える。避難行動要支援者名簿は作成されてるか。

答　計画は作らなければならないもので、防災担当の総務課と福祉課との協議を進める予定でしたが、先に災害が起きてしまい、話し合いができませんでした。早期に進めなければならないものと認識しています。

▶十和田湖地区災害現場

自主防災・災害弱者への対応が求められる

みんなの広場

中村　道義さん

人口減少・少子高齢化によって、「自治会」の役割が増してきています。自治会特集3回目の今回は、川上地区自治会連協会長の中村道義さんからお話を伺いました。

中村さんは、濁川地区自治会長、川上地区自治会連絡協議会会長として3期5年間務められています。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

最近の自治会活動は？

コロナ禍で行事を中止せざるを得ず、次世代の方々とのつながりが薄れ、行事再開が危ぶまれます。しかし、公民館行事、小坂七夕祭には多くの集まりが見られています。

川上地区は、県の「コミュニティ生活圏形成事業」に指定され活動していますが、この事業への期待は？

期待は大いにあります。小学校がなくなり、今は4集落が公民館をよりどころに活動しています。コロナ禍で思うように進まないこともありますが、県や町の力添えを得て川上地区の将来を模索しているところです。「行動力のある川上地域づくり活動」ができると考えています。

議会への要望はありますか？

小さなことでも、町民代表者としての活動が多く見られるよう、活発に活動願いたい。

これからの自治会活動の課題は？

少子高齢化はやむを得ないことと考えますが、その中でもできること、しなければならないことがあります。地域住民がここで穏やかに暮らすために、多くの意見交換と活動ができる場を作り上げたいと考えています。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

川上地区の将来を見据え、若いリーダーとして自治会活動・運営に意欲的に取り組んでおられる中村道義さん。敬意を表するとともに、今後の活躍に期待しています。

人事案件に同意しました

9月定例会

人権擁護委員

木村安子氏（再任）

教育委員会委員

小田桐昌善氏（再任）

情報公開審査会委員

伊藤智子氏（再任）
青島達也氏（再任）
花田洋二氏（再任）
葛西壽氏（再任）
齊藤孝志氏（再任）

小坂町議会主催「町民と語る会」中止のお知らせ

11月に予定していた「町民と語る会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とさせていただきます。

議会では、皆様からの意見を「語る会」でお聞きしたいと考えていましたが、議会に対しての提言や要望と併せて、文書等で随時受け付けしていますので、お気軽に事務局までご連絡ください。

お問い合わせ先
議会事務局（TEL29－3914）

例年の語る会の様子

編集後記

令和4年は、あまりにも想定外の出来事が起こっていることに驚きを隠せません。平和の祭典であるべき冬季オリンピック・パラリンピック開催中に、ロシアがウクライナを軍事侵攻。八か月経過した今日においても終息に至る状況には無く、どのような結末を迎えるのか予断を許さない状況にあります。

また、余りにも衝撃的なニュースとなったのは、7月投開票の参議院選挙において、応援弁士を務めている安倍元総理が凶弾に倒れ一命を失ったことです。容疑者の供述からは、安部元総理と特定の宗教法人の関係が密接であるとの勝手な判断から、これに憤りを覚え、計画的に準備を進め犯行に及んだことと理解をしました。

この宗教法人においては、霊感商法等これまでの実態が報道されていますが、多額の金銭が詐取されていることは許せません。町民皆さんもオレオレ詐欺等には十分注意を払って頂きたいと思います。

成田　直人